

北摂里山地域循環共生圏

活動団体名：公益財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)

活動地域：兵庫県北摂地域



活動におけるテーマ

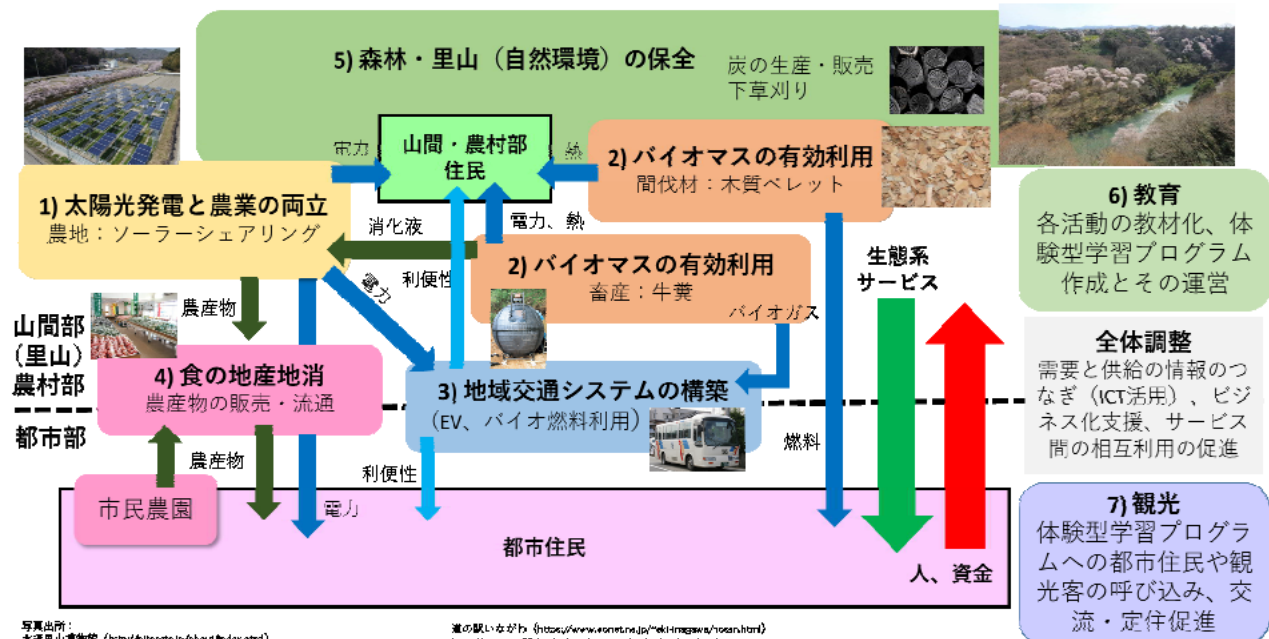
里山保全をベースにした

食料とエネルギーの自給自足、

山間・農村部と都市部間の人と資源の還流

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

里山保全をベースにした食料とエネルギーの自給自足、山間・農村部と都市部間の人と資源の還流



写真出所：
 北摂里山博物館 (<http://hitozato.jp/about/index.html>)
 神戸新聞NEXT (<https://www.kobe-np.co.jp/entoku/shingokoku/923181203/4500075.shtml>)
 一般社団法人西谷ソーシャリング協会 (神戸新聞社提供)

道の駅いながほ (<https://www.wonnet.ne.jp/~4141mgswa/rozan.html>)
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/makushihub.html>
 川西市コミュニティバス (http://bus.jp/cb_kinki/kb_kevsn/shi-shi.html)
 神戸大学：地域に分散する未利用バイオマスからのバイオガス創生 (<http://www.kobe-u.ac.jp/report/Environmental/2018/5-3-5.html>)

地域の現状と課題

◎活動地域の概要

西谷(宝塚市)、中谷(猪名川町)、東谷(川西市)。古くから摂津の国の一つの文化圏として形成された地域。都市、山間、農村部が混在している。

◎活動地域の特性(強み・弱み)

里山の文化や歴史、都市部からのアクセスのよさ
地球温暖化に伴う日照りや高温による農作物の日焼けや品質低下
地域住民の高齢化に伴う交通弱者の増加と地域公共交通サービスの不足
様々な主体による地域活性化の取組を連携させる地域コーディネーターの不在

◎活動地域にある地域資源

森林や農畜産業から得られるバイオマス、農業と太陽光発電を両立させたソーラーシェアリングの実績、地域の核となる多様な団体の存在

◎現状から考える地域の課題

北部の山間・農村部における人口減少および高齢化

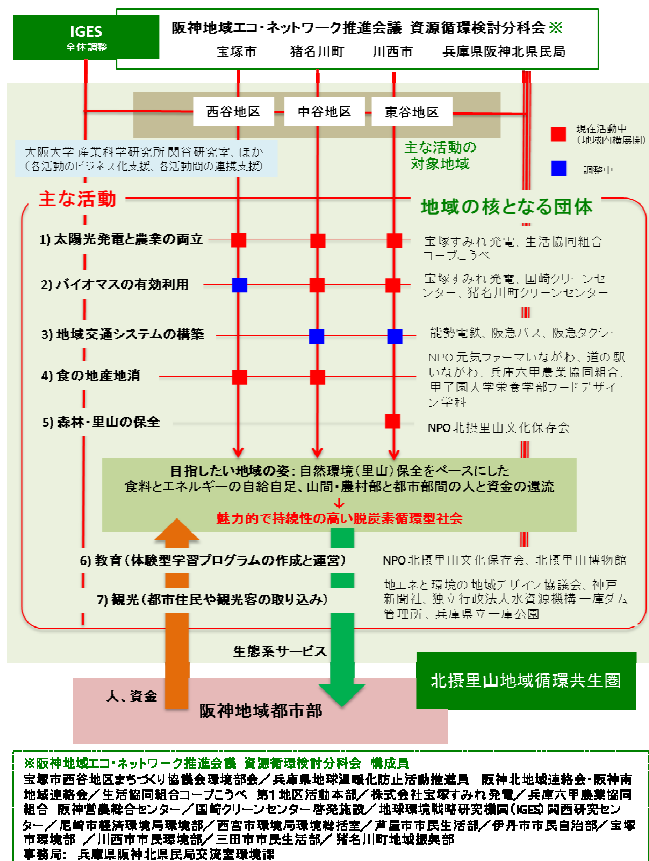
◎今後の取り組むべき課題

地球温暖化に伴う日照りや高温による農作物の日焼けや品質低下、
地域住民の高齢化に伴う交通弱者の増加と地域公共交通サービスの不足、
様々な主体による地域活性化の取組を連携させる地域コーディネーターの不在

◎課題の中で地域循環共生圏を活用し、解決しようとする課題

地域の強靱化、地域連携の創出強化、地域コーディネーターの育成

地域循環共生圏を活用して目指す地域の実現のために



◆どのようなアイデアがあるか?

5つの事業、2つの活動に分化し、集中特化した事業推進を図るとともに、全体調整機能を設け、進捗管理・連携推進を実現する。

◆どのような人を巻き込んでいくか?

現在各々の事業の核となっている人をアサインすることで、実現性が高くかつ未来につながる意欲にあふれた連携を実現する。

◆どのようにアプローチしていくか?

現在の事業展開をサポートし、かつ、連携から生み出されるポテンシャルを付加することで、共生圏としての全体性を強化育成する。

◆どのようなプロセスになるか?

事業強化→連携強化→結果総括→PDCA

◆どのような仕組みを作っていくか?

月単位のレビューと3月ごとの検証・計画見直し、活動への反映を通じて結果にコミットするPM手法を導入する

今後の事業取り組み予定①

本提案事業は、西谷、中谷、東谷を中心とした地域で実施する5つの活動、それを都市部住民とつなぐ2つの活動、そしてこれらの活動間の連携を図る全体調整業務からなる。

全体調整

地球環境戦略研究機関(IGES)関西研究センターが、兵庫県阪神北県民局交流室環境課と連携して担当する。各活動の関係者間の調整は、同課が事務局を務める**阪神地域エコ・ネットワーク推進会議資源循環検討分科会**を通じて行う。各活動の需要と供給を情報通信技術(ICT)でつなぐことによるビジネス化の支援及びこれらの活動・サービス間の相互利用を可能にするシステムの構築に関しては、県内外の大学・研究機関や民間企業の技術的支援を仰ぐ。

1)太陽光発電と農業の両立

西谷地区においてソーラーシェアリング市民農園計6基(発電容量計186kW)を設置運営する**非営利型株式会社宝塚すみれ発電**の活動を中谷や東谷など他地区に発展・拡大していく。

2)バイオマスの有効利用

非営利型株式会社宝塚すみれ発電は、農林水産省2018年度「6次産業化支援事業」等にて、乳牛ふん尿等を活用するバイオガスプラントによる地域循環型エネルギーシステムの構築を進めており、この事業を宝塚市西谷地区の酪農事業者に拡大発展させる。**生活協同組合コープこうべ**は食品廃棄物の堆肥化やバイオガス化を進めており、**猪名川町**では間伐材やせん剪定枝葉から木質ペレットを年600トン程度生産、**国崎クリーンセンター**(猪名川上流広域ごみ処理施設組合)にも多くの木質バイオマスが集積していることから、連携の中で事業化を推し進める。

3)地域交通システムの構築

太陽光発電の電力を利用した電気自動車や電動アシスト自転車及び充電スタンドの設置、バイオガス生成によるバイオ燃料を利用したコミュニティバスの運行等、地産のクリーン・エネルギーを利用したインフラ整備等、地域の交通サービスを提供している**能勢電鉄株式会社**、**阪急バス株式会社**、**阪急タクシー株式会社**、さらにそのプラットフォーム構築に関しては**大阪大学産業科学研究所関谷研究室**等の関係者を交え、その実現可能性を協議していく。

今後の事業取り組み予定②

4)食の地産地消

NPO法人元気ファーマいながわは農家から休耕田を借り、自分で育てた野菜を食べるだけでなく、道の駅いながわ等で販売し、それを各種イベントや学校給食・飲食店等に提供し、子供たちの野菜づくり体験プログラムや野菜づくり講座を開講している。**甲子園大学栄養学部フードデザイン学科**は、農産品の生産だけでなく、地域色を生かしたレシピ開発を学科活動として取り組んでいる。これらの活動に都市住民を惹きつけ、都市部と農村部の連携を図ることにより、農地や環境の保全を推進。

5)森林・里山の保全

NPO法人北摂里山文化保存会は、ナショナルトラスト活動の精神から、「日本一」と称される里山の根幹である川西市黒川(東谷地区)の台場クヌギ林1.7haを取得し、その保全活動を進めている。広範なボランティア組織と連携し、全体の保全計画を効率化し、保全要員を都市部などにも広く募ることで、北摂地区全域での自然保全活動を広げていくことで、共生圏の基盤を構築する。

6)教育:体験型学習プログラムの作成と運営

東谷地区では**北摂里山博物館**が北摂里山大学という市民講座を開講しており、自然観察から里山の保全活動、植生管理、菊炭の製造・販売、生物多様性、防災と安全等のテーマを取り扱っている。これらの教材を参考に、**NPO法人北摂里山文化保存会**と各活動主体が協力し、本提案事業の活動を学習プログラム化し、この関係者のネットワークを活かし、さらに領域を広げた学習機会の提供を進める。本事業では、この学習プログラムの運用を通じ、新たなプログラムを生み出せる人材を育成し、北摂里山地域循環共生圏の事業全体の持続的発展を目指す。

7)観光:都市住民や観光客の取り込み

神戸新聞社の発信力を生かす。同社は昨年度、兵庫県、神戸市、神戸大学、兵庫六甲農業協同組合、生活協同組合コープこうべ等と連携し、地域資源から得る自然エネルギー「地エネ」を生かした地域づくりを推進する「**地エネと環境の地域デザイン協議会**」を発足した。協議会メンバーとの連携、新聞紙上での成果の発信、本提案事業の活動の体験型学習プログラムへの集客を通じて、都市住民の導入を促進する。

スケジュール（令和元年度）

	2019年度								
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境省	<p>上旬：請負先決定 30～31日：活動団体情報交換会① 【実施内容】 ・地域循環共生圏について ・活動団体の取組予定の発表 ・経費の精算等について ※ 支援チーム派遣先決定のためのヒアリングを兼ねる</p>	<p>下旬：有識者会議① ・本業務の進め方について ・情報交換会①での結果報告を踏まえ、支援チーム派遣先決定 （参考）プラットフォームの在り方に関するWG①（都内）</p>	<p>上旬：有識者会議①で決定した団体へ支援チーム派遣開始（3回程度）（3月まで） 中旬：支援チーム連絡調整会議①（都内） 【実施内容】各活動団体での取組進捗状況の確認と情報の共有 ※ 請負業者で情報発信WEBサイト公開</p>	<p>上旬：現地意見交換会の開催（現地訪問・アドバイス・状況確認）（12月まで） 【実施内容】1団体当たり1回実施各活動団体の実施状況について活動団体、環境省及び請負者による意見交換会 （参考）下旬：環境省のみでプラットフォームの在り方に関するWG②（都内）</p>	<p>下旬：有識者会議② 【検討事項】 ・プラットフォームの在り方について ・環境整備及び支援チーム派遣等の継続の要否について</p>		<p>中旬：支援チーム連絡調整会議②（都内） （参考）プラットフォームの在り方に関するWG③（都内）</p>	<p>中旬：活動団体情報交換会②（成果発表会・都内） 【実施内容】 ・活動団体の取組成果の発表 ・次年度の継続の意思確認と評価 シンポジウム開催（場所未定） 下旬：活動団体成果報告書の提出 精算書類最終締切</p>	<p>中旬：有識者会議③ 【検討事項】次年度環境整備団体の選定について 下旬：報告書提出</p>
阪神地域エコ・ネットワーク推進会議資源循環検討分科会	30～31日：ISAP2019で発表（横浜）	<p>上旬： ・計画書作成（IGESが環境省へ提出） ・各地域での活動開始</p>				<p>中旬：中間報告結果取りまとめ 活動団体担当者（IGES）は12月20日（金）までに事務局の全体統括者へ報告</p>			
分科会の活動	8日：第1回分科会開催		<p>上旬：第2回分科会開催 ※ 9月6日 分科会事前打合わせ</p>			<p>上旬：第3回分科会開催</p>			
兵庫県	リーディングプロジェクト副知事協議		来年度予算要求						
地エネ協議会（神戸新聞社）	8日：協議会設立、シンポジウム開催		第2回協議会（分科会開催）				第3回協議会（シンポジウム）		